



書評

[評者]

新納 宏昭

九州大学大学院教授・
医学教育学

動画・音声付 臨床問題教材作成ガイド

次世代医師国家試験を見据えて

松山 泰 編

●B5 頁184 2025年7月

定価：8,800円（本体8,000円＋税10%）

[ISBN978-4-260-05981-7] 医学書院刊



本書は、次世代医師国家試験のコンピュータ試験（Computer-Based Testing；CBT）化を見据え、動画・音声を用いた臨床問題教材の作成方法とその教育的意義を解説した類まれな一冊である。その内容は、単なる作成マニュアルにとどまらず、医学教育の変革、DX時代に求められる医師の資質・能力、そしてAI技術の活用に至るまで、時流に沿った興味深いものである。

医師国家試験のCBT化が、現行の診療参加型臨床実習をさらに活性化し、同時に実践力を総合的に評価するツールとなることには全く同感である。従来の筆記試験では評価が困難とされた「医師の知覚情報の認知と言語化能力」や「情報識別力と応用力」に着目し、これらの能力評価には動画・音声素材が不可欠であるという点は論を俟たない。

「臨床問題教材の作り方」の章では、単なる知識の羅列ではなく臨床実践に即した問題作成のルールが具体的に示されている点は本当にありがたい。「河北班」臨床推論モデルに基づいた問題作成手順は、思考プロセスを可視化し、同時にEBMの適応を促す点で高い教育効果を期待させる。

本書の大きな魅力は、生成AIの活用にも積極的に言及している点である。模擬患者や模擬医療者の生成、医療画像の生成、さらに

はチームダイナミクス動画の作成まで、最新のAI技術が医学教育コンテンツ作成に与える可能性が具体例とともに提示されており、今後を見据えた観点には目を見張るものがある。ただその一方で、AIのハルシネーションといった課題にもきちんと触れつつ、DX時代における教育ではAIの適切な活用について継続的な議論がまだまだ必要であろう。

本書の魅力のもう一つは、作成した教材の活用方法といった運用面まで触れている点である。PICRATモデルを用いた教育の俯瞰、LMSの活用、H5PやSCORMといった紹介など、教材をより多くの学習者に届けるための具体的な方法が示されている。学習履歴に基づく学習者の評価や教材の評価に関する考察は、より深い学習成果の測定につながる可能性があり、教育効果の向上をめざす教育者にとって役に立つに違いない。

本書は、医師国家試験のCBT化という変革期を好機ととらえ、動画・音声、そしてAIといった最新技術を医学教育に統合するための手引書となるタイムリーな一冊である。医学部の教員、医療コンテンツ開発者、そして次世代の医療を担う医学生のすべてにとって、手放せない書となることを信じてやまない。